

廃炉プロセス 「共通項目」
検討対象 「標準化」

ニーズ

1. 廃炉作業に係る考え方や技術、装置を標準化したい

燃料デブリ取り出し：【中期】

望ましい状態とその理由

- 福島第一原子力発電所内の状況は一様ではなく、状況や対象に応じた個別の対応が必要となるが、全ての作業を状況や対象に応じて行う場合、時間・コスト・被ばく量・廃棄物量の観点で合理的ではなく、一定の標準化を行うことが望まれる。そのための基盤的情報として関連する課題を洗い出し、各課題の関係性を整理し、構造化しておくことが望ましい。
- 収集する3次元データ、機器の操作や表示などは、フォーマットの統一化や拡張性を考慮したものに整備、標準化していくことが望ましい。

理想に対する現状

- 1号機から3号機までのPCV内部調査技術や燃料デブリ取り出し技術に関して知見や技術の共通化が検討されている。遠隔装置の保守技術については、全号機を包括して検討が進められている。

解決すべき課題

- 標準化を行い、時間・コスト・被ばく量・廃棄物量の観点で合理化できる箇所の洗い出しを行う必要がある。
- 標準化を行う上で、必要な情報・データを取得・集約する必要がある。また、そのための情報プラットフォームを構築することが望まれる。

参考文献

- 東京電力ホールディングス(株)福島第一原子力発電所の廃炉のための技術戦略プラン 2024、原子力損害賠償・廃炉等支援機構、2024年9月27日
 - https://dd-ndf.s2.kuroco-edge.jp/files/user/pdf/strategic-plan/book/20240927_SP2024FT.pdf

(参考) 関連する研究課題

実施されている研究課題

- 特になし

検討されている研究課題

- 特になし

関連する課題